



Electric Oil-Filled Heater

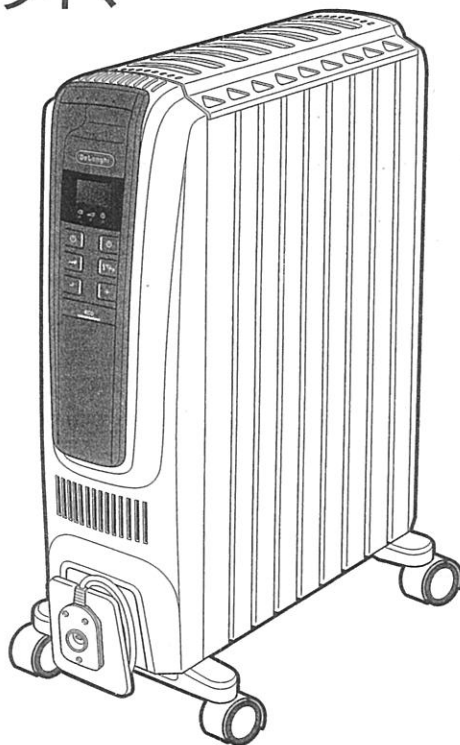
デロンギ
ドラゴンデジタルスマート
オイルヒーター

型式番号 QSD0915/ QSD0712 (共通)

※型式番号の後に続くハイフンおよびアルファベットは色番号を表しています。

- ▶ 9枚フィン: X字型 / 1500W (QSD0915)
7枚フィン: X字型 / 1200W (QSD0712)
- ▶ デジタル ON/OFF タイマー
- ▶ 安全プラグ
(温度過昇防止装置内蔵)
- ▶ エコ運転モード

家庭用



Made in China

※イラストは QSD0915 です。

取扱説明書 (保証書付)

この度は、デロンギヒーターをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。

お求めの製品を正しく安全に使用していただくため、ご使用前に、必ずこの取扱説明書を最後までお読みください。

また、お読みになった後は、大切に保管してください。

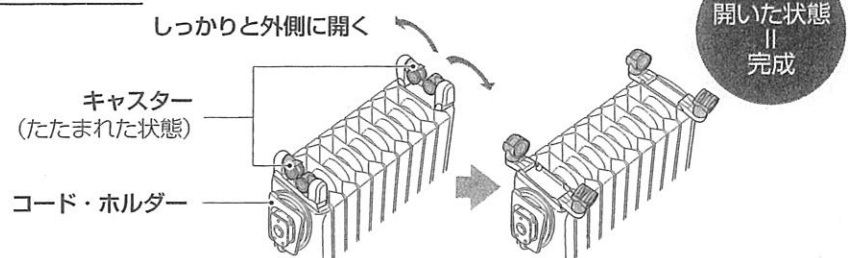
目次

安全上のご注意	1~5
知っておいていただきたいこと	6
ご使用になる前に	6
各部の名称とはたらき	7~8
暖房の設定方法	9
暖房運転の方法	10~11
運転モードの切り替え (マニュアル運転とエコ運転)	11
タイマー運転の方法	12~13
便利な機能について	13
ヒーターの上手な使い方	14
プラグの収納について	14
故障かな?	15~16
これは故障ではありません	17
仕様	17
電源プラグ・コードの 安全チェックシート	18~19
お手入れ/保管のしかた	20
まごころ点検について	20
アンケートご協力をお願い	21
アフターサービス	22
保証書	裏表紙

折りたたみ式キャスターの開き方

折りたたみ式キャスターを開く手順

- ①ヒーターの底部を上にして仰向けにします。
- ②キャスター全てを、しっかりと外側に開きます。
- ③ヒーターをゆっくりと起こします。



安全上のご注意

各注意事項を、必ずお守りください。

1. ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」を最後までお読みください。
2. ここに示した注意事項は、製品を正しく安全にお使いいただき、あなたや他の人々への損害を未然に防止するものです。
3. 注意事項は、誤った取り扱いで生じることが想定される内容を、その危害や損害および切迫の度合いにより、「危険」「警告」「注意」の3つに分け、明示しています。

⚠️ 危険

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して想定される」内容です。

⚠️ 警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

⚠️ 注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

4. 各注意事項には、「禁止」または「強制」を促す絵表示が付いています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



：禁止



：接触禁止



：水ぬれ禁止



：分解禁止



：ぬれ手禁止



：風呂・シャワー室での使用禁止



：指示を守る

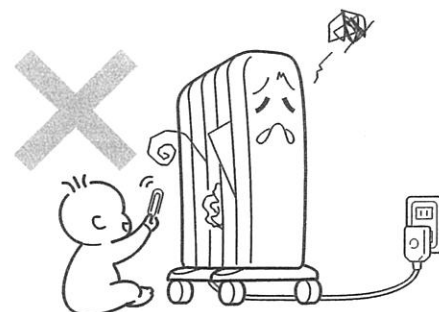
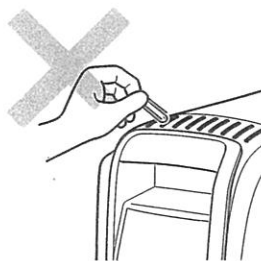


：電源プラグを抜く

⚠️ 危険



穴、すき間、開口部に指やピン・針金などを差し込まない。
特に子供のいたずらに注意する
感電やケガをすることがあります。



⚠️ 警告

【電源／コンセントについて】



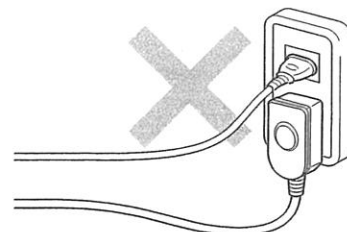
電源は交流 100V (50/60Hz) で「15A 125V」と記されている壁面のコンセントに直接差し込む

他の機器と併用すると、発熱による火災の原因になります。

15A 125V



コンセントは本製品だけ（単独）で使用する
コンセントの差し込み口が2つある場合は片方の差し込み口を使用しないでください。

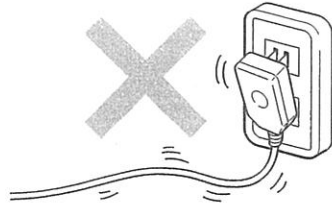


警告

【電源 / コンセントについて】

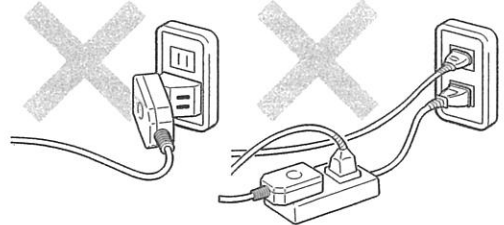


取付けの悪いコンセントは絶対に使わない
取付けの悪い（ガタツキのある）コンセントや差込み口（刃受）のゆるいコンセントは、絶対に使用しないでください。感電や発熱の恐れがあります。



延長コードやテーブルタップ、ソケットなどは絶対に使わない

コンセントや電源プラグ / 電源コードが異常発熱し、発火する恐れがあります。

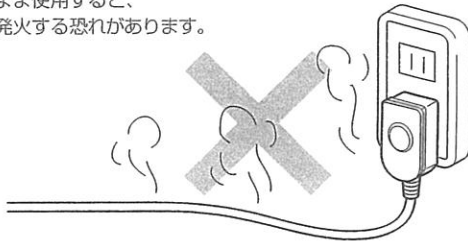


【電源プラグ / 電源コードについて】



電源プラグ / 電源コードが異常発熱している場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く

ヒーターの運転中に、電源プラグ / 電源コードが異常に熱くなる場合は、直ちに電源ボタンで電源を切り（＝運転中止）、お求めの販売店または当社サービスセンター（22 ページ）に、ご相談ください。そのまま使用すると、ショートや発火する恐れがあります。

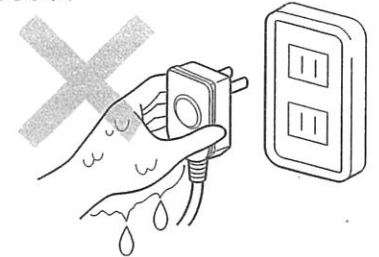


変形・破損している電源プラグ / 電源コードは絶対に使わない

感電やショート、発火する恐れがあります。必ず、お求めの販売店または当社サービスセンター（22 ページ）に、交換を依頼してください。

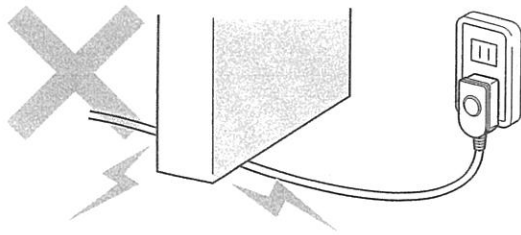


ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電する恐れがあります。

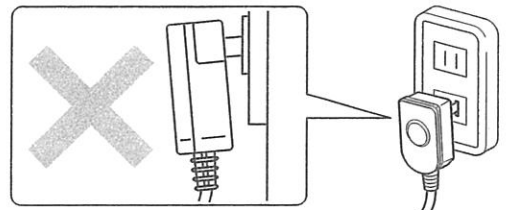


電源プラグ / 電源コードを破損するようなことはしない

電源プラグ / 電源コードは、大切に扱ってください。無理に曲げたり、物を載せたり、束ねたり、傷をつけないでください。傷んだまま使用すると、感電やショート、発火などの原因になります。



電源プラグは、根元までしっかりと差し込む
不完全な接続は、感電や発熱による火災の原因になります。



動作中に電源プラグを抜き差ししない

ヒーターの運転中に、電源プラグの抜き差しをしないでください。感電・火災の原因になります。



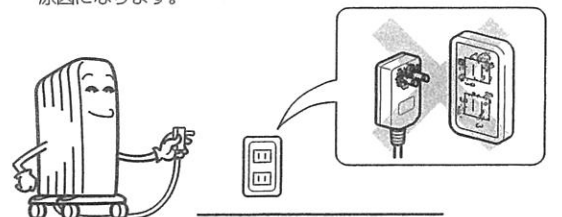
運転の際は、電源コードを巻きつけた状態で使用せず、すべてコード・ホルダーから解き、余っても束ねない

熱の逃げ場が無くなって高温になり、発火する恐れがあります。



電源プラグやコンセントに付着しているホコリやゴミは、定期的に取り除く

ホコリやゴミが湿気を帯びると、ショートや漏電、発火などの原因になります。



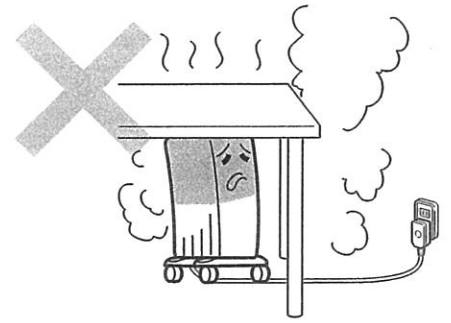
警告

【設置場所について】



テーブルや机の下で使わない

ヒーターの上部は燃え易いものから約 1m 以上の距離を取ってください。
ヒーターの上部をふさぐと、空気の対流ができず高温となり、火災やヤケド、故障などの原因になります。また、ヒーターの熱で電源コード／電源プラグやコンセントが変形・変質し、出火する恐れがあります。

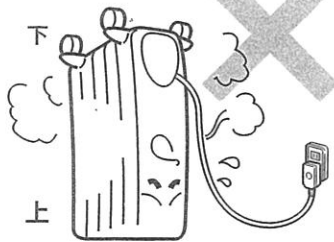


【使用中／使用後について】



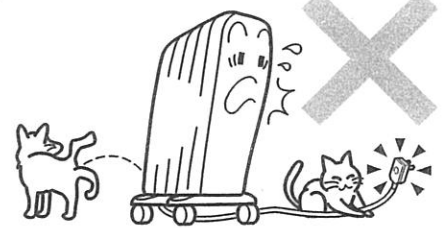
逆さまや横倒し、立てかけて使わない

火災や故障などの恐れがあり、危険です。



猫や犬など、ペットの暖房に使わない

ペットが本体や電源プラグ／電源コードなどを傷め、発火や故障の原因になります。



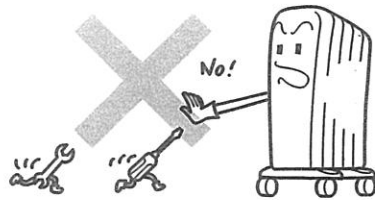
スプレー缶などを本体の近くに置かない

スプレー缶が破裂し、火災の原因になります。



本製品を分解したり、改造をしない

故障や発火の恐れがあります。ヒーター内部には難燃性のオイルが充てんされています。修理が必要な場合は、必ず、お求めの販売店または当社サービスセンター（22 ページ）までご連絡ください。



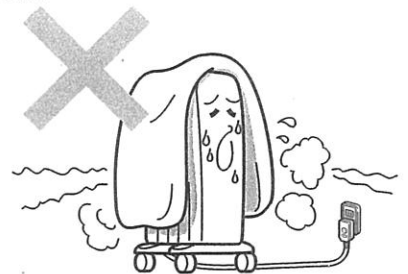
カーテンなど燃え易いものの近くで使用しない

カーテンなどが本体を覆ってしまうと、過熱により火災の恐れがあります。



本体や通気口をタオルや毛布などで絶対に覆わない

本体や通気口にタオルや毛布などをかけたり、濡れたもの（洗濯物など）の乾燥に利用しないでください。過熱により、火災や故障などの恐れがあります。

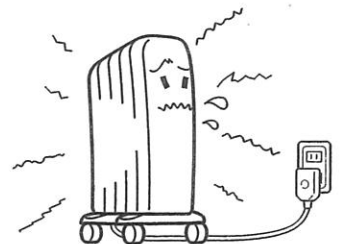


【運転中について】



異常が生じた場合は、使用を中止する

万一、異常が生じた場合は、直ちに電源を切り（＝運転中止）、電源プラグをコンセントから抜いてください。異常な状態で使い続けると、事故や故障につながります。必ず、お求めの販売店または当社サービスセンター（22 ページ）までご連絡ください。



【お手入れについて】



本体のお手入れは電源プラグをコンセントから抜き、冷えてから行う

ヤケド・感電・ケガの原因になります。



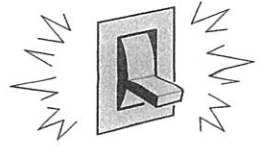
⚠ 注意

【電源について】



ブレーカーが落ちる場合には、電力会社に連絡する

ヒーターを運転中にブレーカー（分電盤内の回路遮断器）が落ちる場合には、お近くの電力会社にご相談ください。詳しくは、6 ページ「知っておいていただきたいこと」を参照してください。

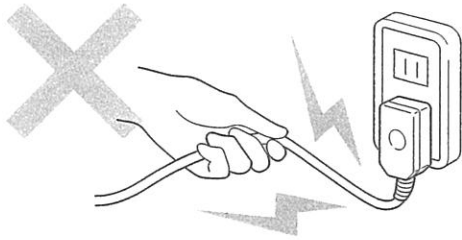


【電源プラグ／電源コードについて】



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たず、必ず電源プラグを持って抜く

電源コードを無理に引っ張ると、破損する恐れがあります。



運転中は、電源コードを本体に触れさせない

熱で電源コードが傷み、感電やショートの原因になります。



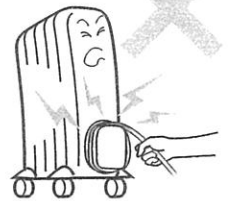
電源コードを引っ張らない

電源コードを引っ張ると、コードの接続部が傷み、感電やショートの原因になります。



電源コードをコード・ホルダーに強く巻きつけない

電源コードを強く巻きつけると、コードの接続部が傷み、感電やショートの原因になります。

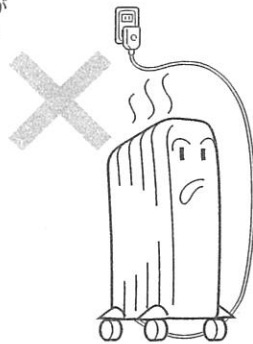


【設置場所について】



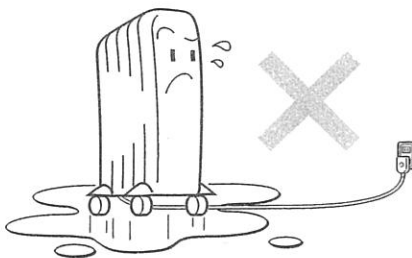
電源をとるコンセントのすぐ下で使わない

暖気で電源コード／電源プラグが変形・変質し、故障などの原因になります。



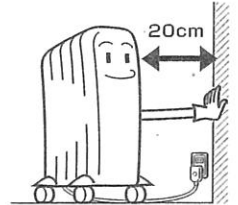
屋外や水／湿気の多い場所（部屋）、浴室で使わない

ショートや感電の恐れがあります。また、硫化ガスが発生する場所（温泉地の脱衣所など）や塩害の恐れがある場所で使用しないでください。故障の原因となります。



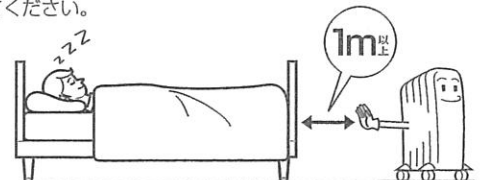
壁や電源をとるコンセント、カーテンなどから20cm以上離す

材質によっては、ヒーターの熱で変色／変質する恐れがあります。



人や家具などからは、1m以上離す

オイルラジエーターヒーターを寝室で使用される場合、寝起き時の転倒事故防止、寝具への接近を考慮して約1m以上の距離を取ってください。



毛足の長い絨毯や凸凹のある床は避け、平らな床に置く

ヒーターが倒れるとケガや事故の恐れがあります。



⚠️ 注意

【使用中／使用後について】



使用時は必ずキャスターを開く

必ず本体底部のキャスター（車輪4個）を水平に開き、しっかりと立ててから使用してください。（表紙参照）



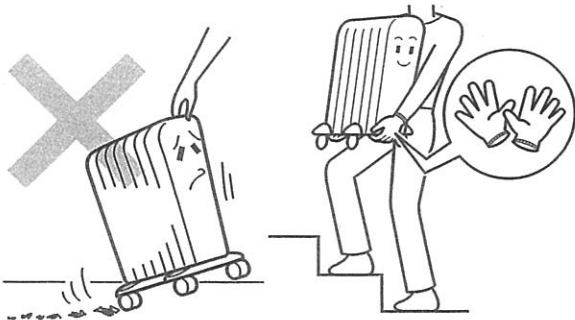
本体が転倒・落下したときには、使用せず、点検を依頼する

感電・火災・ケガの恐れがあります。万一、本体が転倒・落下してしまった場合は、直ちに電源を切り（＝運転中止）、お求めの販売店または当社サービスセンター（22ページ）までご連絡ください。



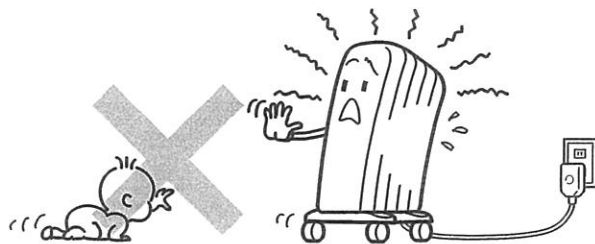
ヒーターの移動は、必ず本体が冷えてから行う

取っ手を持ちゆっくりと引いてください。床面が傷付く場合がありますので、必ずキャスター（車輪4個）を床面につけて、移動してください。本体が重いため、階段や段差での移動は、手を保護する目的で手ぶくろなどをし、本体底部を持って行ってください。



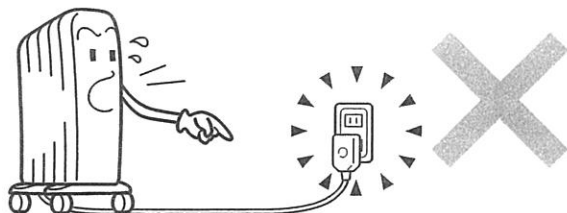
小さなお子様がいるときは、必ず付き添う

運転中および運転していないときも、お子様がヒーターのそばにいるときは大人の方が付き添ってください。特にヒーター底部やキャスターなどに触れさせないようにご注意ください。



長期間使用しない場合は、必ず電源プラグを抜く

誤って、電源が入る恐れがあります。

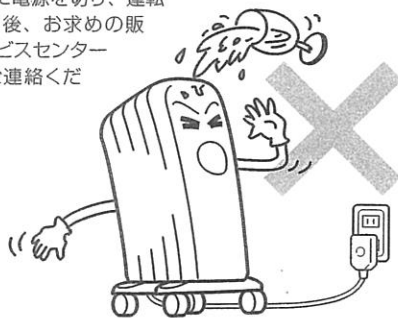


【運転中について】



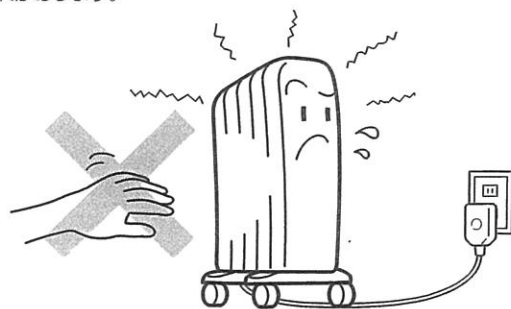
本体や操作部に水やジュースをこぼさない

本体や操作部に、水やジュース（液体）などをこぼさないでください。万一、こぼしてしまった場合は、ショートや感電などの恐れがありますので、直ちに電源を切り、運転を中止します。その後、お求めの販売店または当社サービスセンター（22ページ）までご連絡ください。



運転中および停止直後は、ラジエーター／フィン（放熱板）に触れない

表面温度は、高温になりますので触れないでください。ヤケドをする恐れがあります。



【お手入れについて】



絶対に水に浸したり、水洗いをしない



洗剤やクレンザー、シンナー、金たわしなどは使わない



知っておいていただきたいこと

定格電流について

ご家庭内で使用中の他の電気器具（複数）の定格電流との合計値が、契約電力（電気料金の請求書「基本契約欄」に00Aと記載）を超えていないかどうか確認してください。なお、定格電流

の算出方法は、以下の通りです。

$$\text{定格電流 (A)} = \frac{\text{消費電力 (W)}}{100(\text{V: 電圧})}$$

QSD0915 (1500W)	QSD0712 (1200W)
15A(アンペア)	12A(アンペア)

ブレーカーについて

ブレーカー（分電盤内にある回路遮断器）は、その回路で電気を使い過ぎた時や何らかの原因で瞬時に大電流が流れた場合に自動的に電気を断ち、回路を守ります。契約電力が不足している

場合や、足りていても、その回路の容量を超えて複数の電気器具を使用すれば、ブレーカーが働き（＝落ち）ます。※契約電力が不足している場合には、電力会社に増量を依頼してください。

《ご使用になる前に》電源プラグをご確認ください

本製品の電源プラグ（安全プラグ）の特長は…

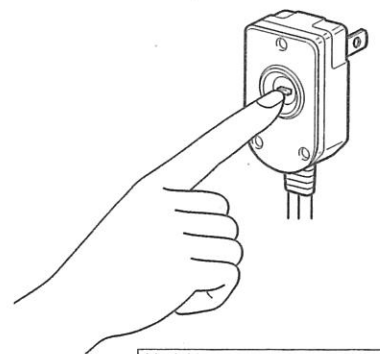
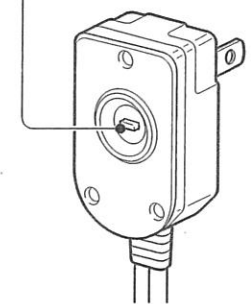
本製品の電源プラグには壁面コンセントの老朽化やガタツキによるプラグ部の発熱・発火事故を未然に防ぐために復帰型温度過昇防止装置が内蔵されています。この装置は、電源プラグスイッチ周辺が異常過熱（約80℃以上）したときに作動し、本製品の電源を切ります。

ご購入時に、電源プラグスイッチが作動している場合があります。これは輸送時のコンテナ内の温度によって復帰型温度過昇防止装置が作動した結果です（故障ではありません）。

最初にご使用になる際に、電源プラグをコンセントに差し込んでも通電ランプが点灯しない場合は、電源プラグスイッチをプラグ内に指先または爪でカチッと音がするまでしっかりと押し込んでから、本製品をお使いください。

※毎シーズン、ご使用になる前には電源プラグをご確認ください。（電源プラグスイッチをプラグ内に指先または爪でカチッと音がするまでしっかりと押し込んでください。）

● 電源プラグスイッチ



特許第 4209907 号取得



注意

運転中に電源プラグスイッチが作動した場合は、電源プラグスイッチを再度押し込んでから、使用するコンセントを変えてみてください。別のコンセントでも電源プラグスイッチが作動した場合は、一時使用を止め、当社サービスセンター（22 ページ参照）にご連絡ください。

各部の名称とはたらき

〈暖房のしくみ〉

ヒーター内部に密封した難燃性オイル(★)を下部にある棒状の電気ヒーターで温めます。温められたオイルはパネル内を循環し、X字型フィン(放熱板)で効率良く放熱、輻射熱と自然対流で室内を暖めます。★オイルの補充・交換は不要です。

本体

通気口



故障の原因になりますので、絶対に
注意 ふさがらないでください。

コード・ホルダー

ヒーターを使わない時/移動する時などに、電源コードを巻いておきます。

温度センサー部

周辺の温度を感知します。誤作動・故障の原因となりますので、ふさいだり、おやみに触れたりしないでください。

電源プラグ(安全プラグ)

復帰型温度過昇防止装置内蔵。
(プラグの収納については14ページ参照)

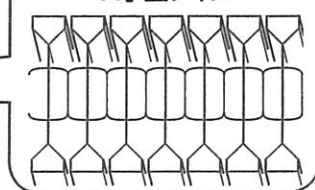
電源コード

取っ手

ヒーターを移動する際にはここに指をかけ、ゆっくりと引いてください。

〈ラジエーター水平断面図〉

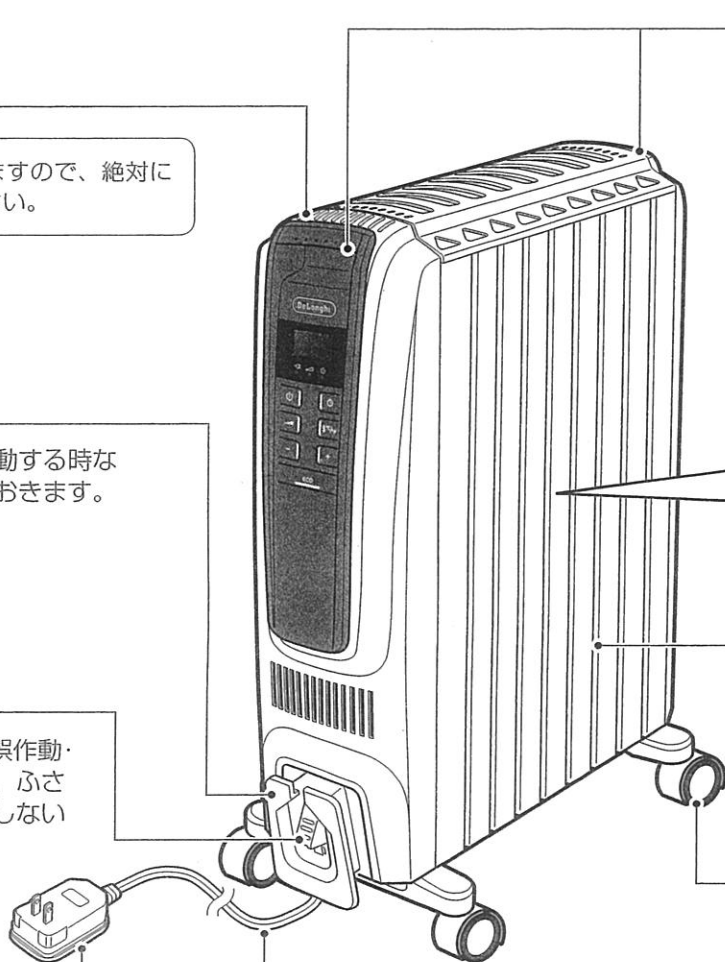
X字型フィン



ラジエーター/フィン

キャスター(折りたたみ式)

折りたたみ式なので、必ず開いてください。(表紙参照)



ヒーターを移動する際のご注意

床材の質・種類によっては、床面が傷付く場合がありますので、ゆっくりと動かしてください。また、階段や段差での移動は、ヒーターが十分冷えてから前後の取っ手を持って行ってください。

各部の名称とはたらき (つづき)

ディスプレイ

ディスプレイには保護シールが貼ってあります。ご使用前にはがしてください。

温度／タイマー予約表示

+/-ボタンで設定した温度が表示されます。タイマー予約の設定操作中は、暖房の開始または終了までの時間が表示されます。(9、12 ページ参照)

タイマー設定表示

タイマー予約の設定操作中に点滅します。(12 ページ参照)

凍結防止機能設定表示

凍結防止機能が設定されているときに表示されます。(9 ページ参照)

エコ運転表示

エコ運転時に表示されます。(11 ページ参照)

摂氏／華氏表示

設定温度の表示に合わせて摂氏(°C)または華氏(°F)の単位記号が表示されます。

時間表示

タイマー予約の設定操作中に点滅します。

チャイルドロック表示

チャイルドロックが設定されている際に、表示されます。(13 ページ参照)

電力レベル設定表示

設定されている電力レベルが表示されます。(9 ページ参照)

	表示	QSD0915	QSD0712
強		1500W	1200W
中		900W	700W
弱		600W	500W
運転停止	(表示なし)	-	-

※通常使用時にこれらが同時に表示されることはありません。(初回使用時に電源プラグをコンセントに差し込んだ時のみ)

操作パネル

通電ランプ

電源プラグをコンセントに差し込むと赤色に点灯します。

電源ボタン

運転の開始／停止を行います。

電力レベルボタン

3段階に電力レベルを切り替えることができます。押すごとに「弱→中→強」と切り替わります。

+/-ボタン

温度やタイマーの設定を変更するときに使用します。

電力レベルランプ

暖房の稼働状況を電力レベルに応じて色別で点灯します。
 強で稼働▶赤色
 中で稼働▶黄色
 弱で稼働▶緑色
 暖房停止▶消灯

タイマー予約設定ランプ

タイマー予約設定時に黄色で点灯します。

タイマー設定ボタン

タイマーの設定および設定解除をするときに使用します。

摂氏／華氏選択ボタン

設定温度の表示を切り替えることができます。押すごとに、摂氏／華氏の表示が切り替わります。

エコ運転ボタン

エコ運転に切り替えることができます。押すごとにエコ運転⇄マニュアル運転と切り替わります。

ヒント ボタンを操作する際は、各ボタンの | マーク付近を押してください。

暖房の設定方法

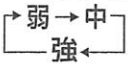
電源プラグをコンセントに差し込んだ状態（通電ランプ→点灯）で操作してください。

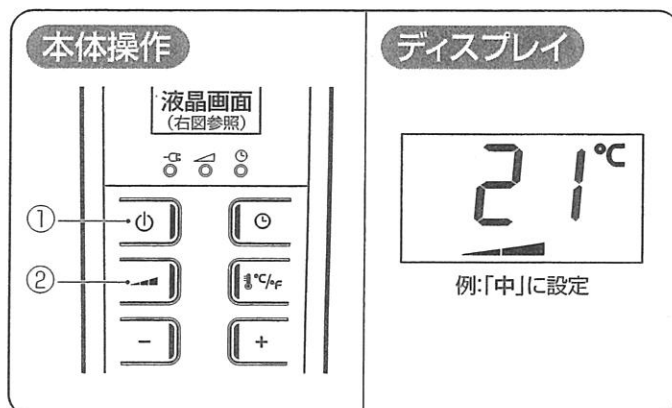
A 電力レベルの設定

①電源を入れる

電源ボタンを押し、電源を入れます。
ディスプレイに設定温度が表示されます。

②電力レベルを設定する

電力レベルボタンを押すと、電力レベルが設定できます。ボタンを押すごとに  と切り替わります。



	ディスプレイ表示	電力レベルランプ表示 (稼動状況の表示)	QSD0915	QSD0712
強		赤色	1500W	1200W
中		黄色	900W	700W
弱		緑色	600W	500W



注意

ヒーターは、温度センサー付近の周辺温度を感知し、設定した温度を保つよう自動的に暖房のオン・オフを繰り返します。そのため、設定した温度が周辺温度よりも低い場合には暖房は開始されません。ヒーター本体を暖めるため、暖房開始当初は最大温度（28℃）に設定することをおすすめします。

ヒント

エコ運転モードでは、設定した電力レベルを上限として、自動的に最適な電力レベルに切り替わります。（詳しくは11ページ参照）

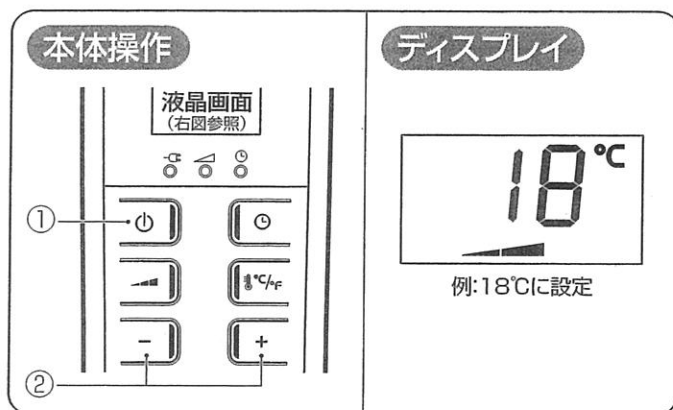
B 温度の設定

①電源を入れる

電源ボタンを押し、電源を入れます。

②温度を設定する

+/-ボタンを押すと、希望の温度が設定できます。温度は10～28℃（または50～82°F）の間で設定可能です。



凍結防止機能

ヒーターには周辺の温度が5℃以下になった場合に自動的に運転を開始し、植物等を凍結から保護する「凍結防止機能」が搭載されています。設定温度を「10℃（50°F）」よりさらに下げることによって設定できます。温度表示が「5℃（41°F）」と表示され、*マークが点灯し、「凍結防止」が設定されます。



暖房運転の方法

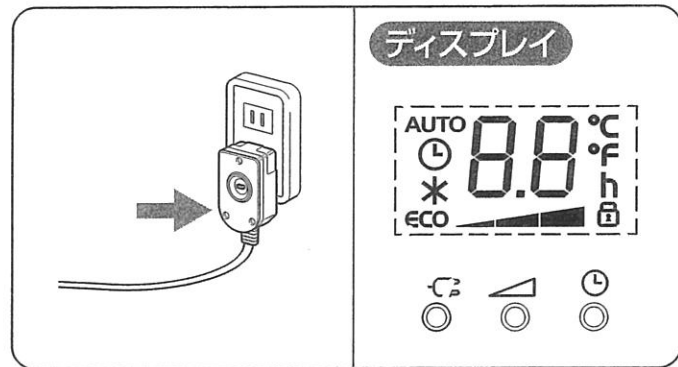
1 電源プラグをコンセントに差し込む

① 電源プラグをコンセントに差し込む

壁面コンセントに根元までしっかりと入れてください。また、電源コードは、コード・ホルダーから解き、伸ばした状態でご使用ください。

② 通電ランプが点灯する

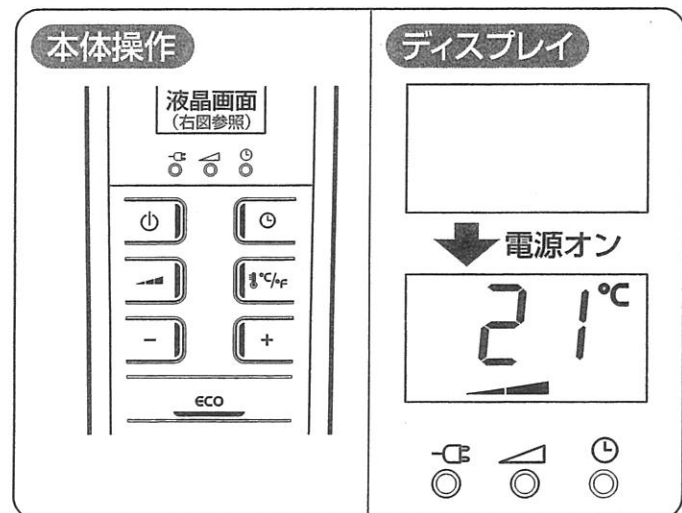
通電ランプが点灯し、ディスプレイが一時的にすべて点灯します。この時はまだ暖房は開始されません。



2 電源を入れる

電源ボタンを押し、電源を入れる

電源ボタンを押し、電源を入れます。電源を入れると、設定されている電力レベル・温度が表示されます。



3 設定を行う

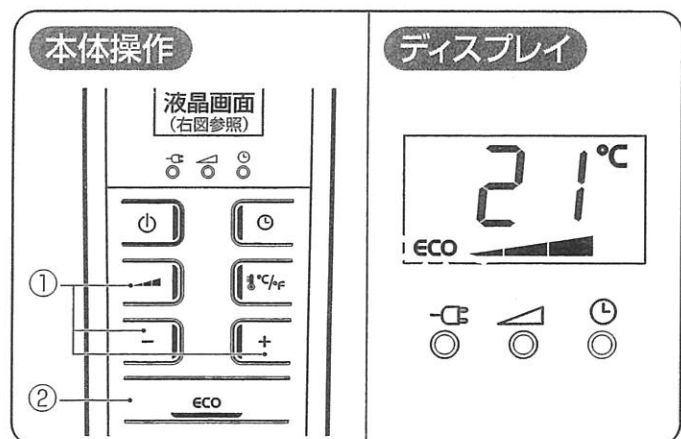
① 電力レベル、温度を設定する

電力レベルボタン、+/-ボタンで設定を行います。詳しくは9ページ「暖房の設定方法」を参照してください。

ヒーターは温度センサー付近の周辺温度を感知し、設定した温度を保つよう自動的に暖房のオン・オフを繰り返します。また、電力レベルランプは暖房の稼働状況に応じて、消点灯を繰り返します（ディスプレイの電力レベル設定表示は稼働状況に応じて変わらず、常に設定した電力レベルが表示されます）。

② 運転モードを選択する

エコ運転ボタンで運転モードを選択します。詳しくは11ページ「運転モードの切り替え」を参照してください。

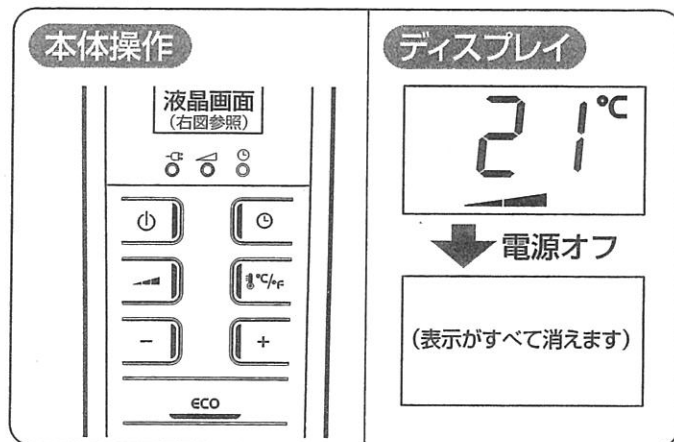


ヒント 暖房運転の当初は室内を早く暖めるために、電力レベルを「強」に設定することをおすすめします。

暖房運転の方法 (つづき)

4 電源を切る

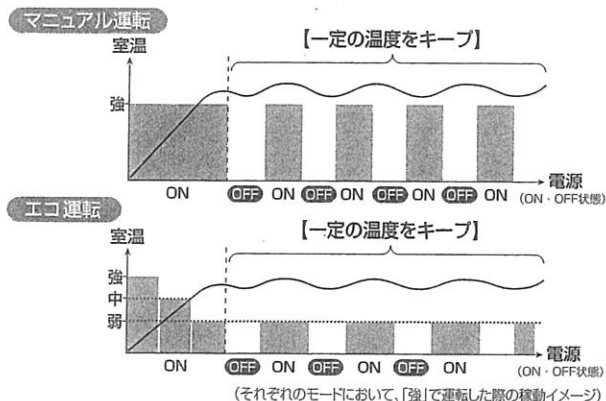
電源ボタンを押し、電源を切る



運転モードの切り替え

暖房運転はマニュアル運転とエコ運転の2種類の運転モードから選べます。エコ運転は設定した温度より、ひかえめな温度（設定した温度より約0.5～2℃低い温度）で運転することにより消費電力量を減らすモードです。また、この運転モードではひかえめな温度になるように最適な電力レベルを自動で選択しますので、手動で切り替える必要がありません。

運転モード	動作温度	電力レベル
マニュアル運転	選択した温度	選択した電力レベル
エコ運転	選択した温度よりひかえめな温度	最適な電力レベルでの自動切替運転



※ 運転中、どの電力レベルで稼働しているかを電力レベルランプの色で確認できます。(9ページ「電力レベルの設定」を参照)

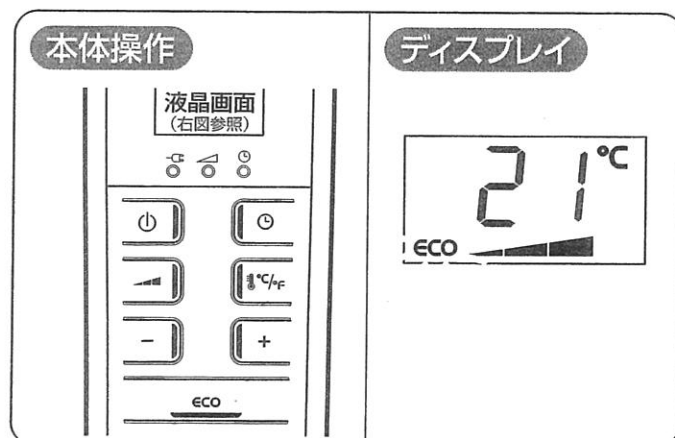
ヒント

エコ運転モード時でも電力レベルを選択することができます。その場合は、選択した電力レベルを上限として、自動で切り替えて運転します。例：中でエコ運転した場合、ヒーターは自動で中・弱・オフを切り替えて運転します。

運転モードの切り替え方法

マニュアル運転中にエコ運転ボタンを押す

ディスプレイにエコ運転表示が表示され、エコ運転モードに切り替わります。マニュアル運転モードに戻す場合は、再度エコ運転ボタンを押してください。



ヒント

室内を早く暖めるために、エコ運転時も電力レベルを「強」に設定することをおすすめします。お部屋が暖まるにつれ、自動で電力レベルを下げていきます。

タイマー運転の方法

設定した時間が経過すると、暖房運転を開始または終了させる方法です。電源プラグをコンセントに差し込んだ状態（通電ランプ→点灯）で操作してください。

ON タイマーを設定する

事前に、電力レベル、温度、運転モードを設定します。詳しくは、9 ページ「暖房の設定方法」および 11 ページ「運転モードの切り替え」を参照してください。

①電源ボタンを押し、電源を切る

②タイマー設定ボタンを押す

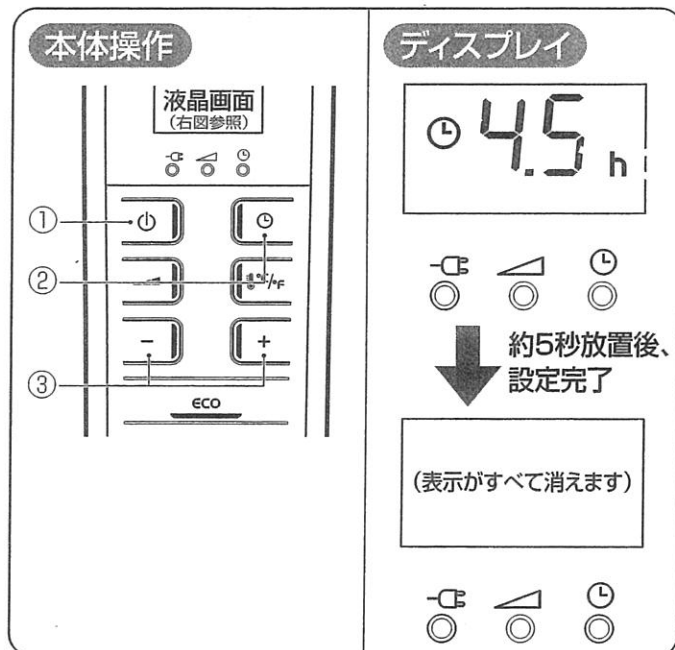
⌚マークとhマークが点滅します。

③暖房運転の開始時間を設定する

何時間後に暖房運転を開始するかを設定します。

⌚マークとhマークが点滅している間に、+/-ボタンで開始までの時間を設定します。タイマーは、10時間までは30分単位、10～24時間までは1時間単位で設定できます。

約5秒間操作しないでいると、タイマー設定が完了し、タイマー予約設定ランプが黄色く点灯します。



ヒント

ディスプレイの⌚およびhが点滅している間（約5秒）にタイマー設定ボタンを操作した場合、タイマーは設定されません。タイマー設定後は必ずタイマー予約設定ランプが点灯していることを確認してください。

OFF タイマーを設定する

①暖房運転中にタイマー設定ボタンを押す

⌚マークとhマークが点滅します。

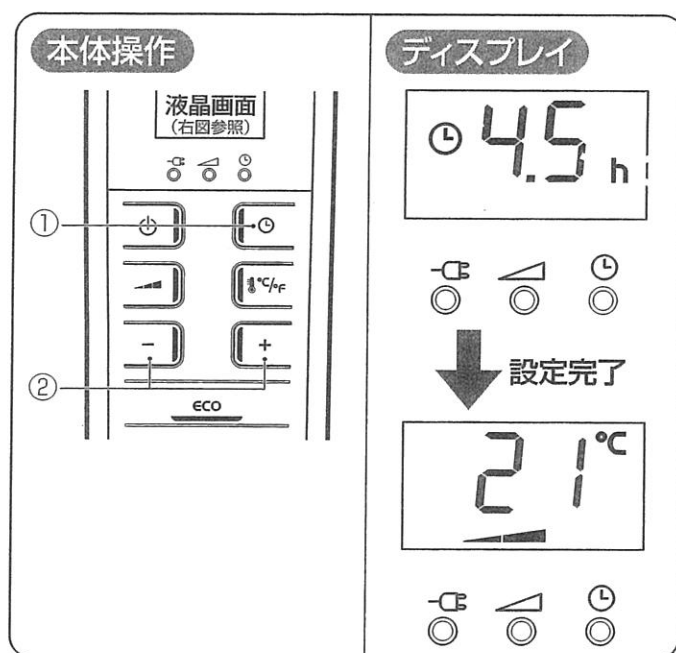
約5秒間操作しないでいると消灯します。その場合は再度タイマー設定ボタンを押してください。

②暖房運転の終了時間を設定する

何時間後に暖房運転を終了するかを設定します。

⌚マークとhマークが点滅している間に、+/-ボタンで終了までの時間を設定します。タイマーは、10時間までは30分単位、10～24時間までは1時間単位で設定できます。

約5秒間操作しないでいると、タイマー設定が完了し、タイマー予約設定ランプが黄色く点灯します。操作を続けたい場合は、再度タイマー設定ボタンを押してください。



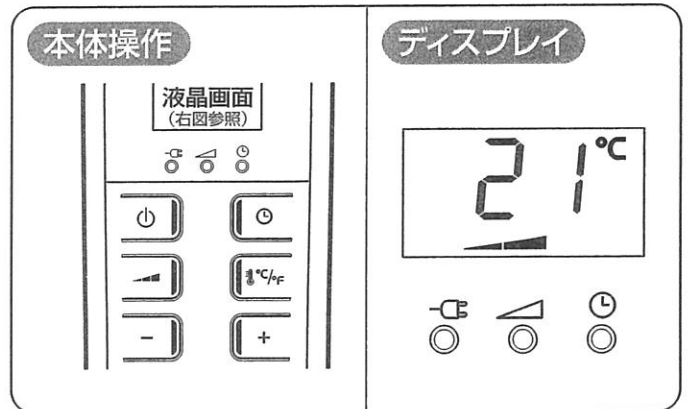
ヒント

タイマー予約設定ランプが点灯するとタイマー予約完了です。タイマー予約設定ランプが点灯していない場合は、再度タイマー設定予約ボタンを押し、約5秒後にタイマー予約設定ランプが点灯していることを確認してください。

タイマー運転の方法 (つづき)

タイマー設定を解除したい場合は

タイマー設定ボタンを2回続けて押して、タイマー予約設定ランプが消灯している状態にしてください。タイマー運転が解除され、通常運転に切り替わります。

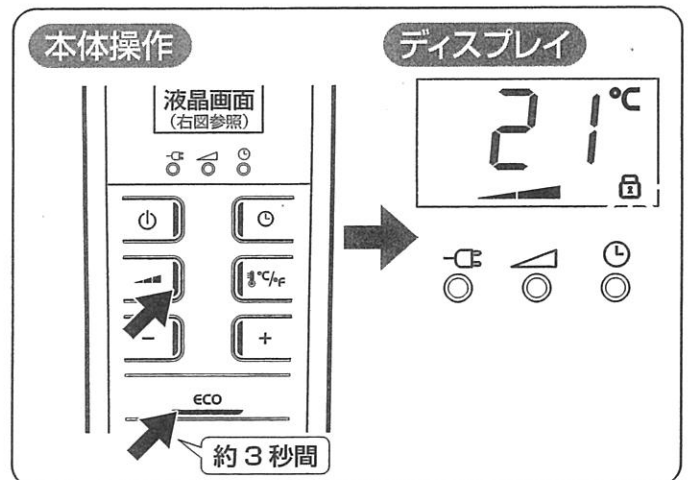


便利な機能について

チャイルドロック

電力レベルボタンとエコ運転ボタンを同時に約3秒間押し続けることで、「チャイルドロック」を行うことができます。設定時はディスプレイに🔒マークが表示され、操作パネルでの操作ができなくなります。解除するには、同様の操作を行ってください。

ヒント 両手で操作することをおすすめします。
チャイルドロックは、運転モードが「マニュアル運転」モードでも「エコ運転」モードでも設定できます。



液晶の明るさ設定

液晶は、ボタン操作から約5分間は最大の明るさで表示され、その後は暗くなります。ボタン操作から約5分経過後に液晶を消灯させることもできます。

●液晶を消灯させたい場合

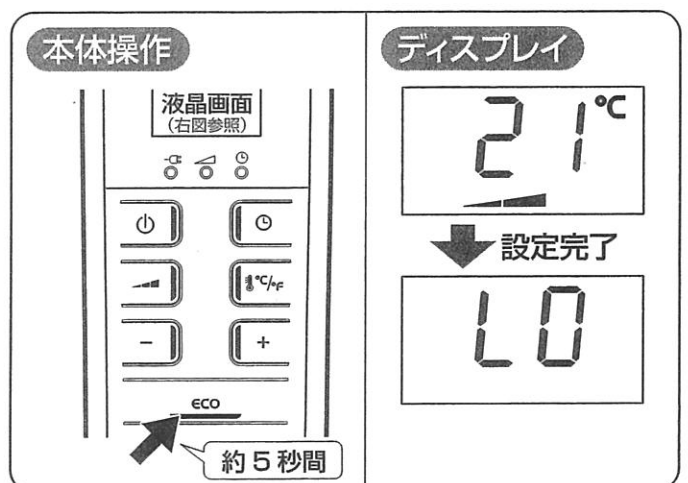
エコ運転ボタンを、約5秒間押し続けます。

ディスプレイに「LO」と表示されたら、設定は完了です。約5分経過後に液晶の表示が消灯します。

●液晶を表示させたい場合

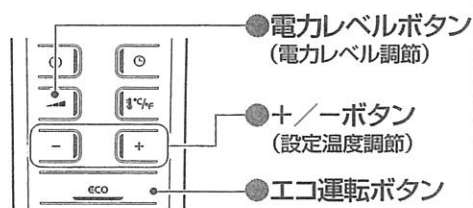
再度エコ運転ボタンを、約5秒間押し続けます。

ディスプレイに「HI」と表示されたら、設定は完了です。約5分経過後に液晶の表示が暗くなります。



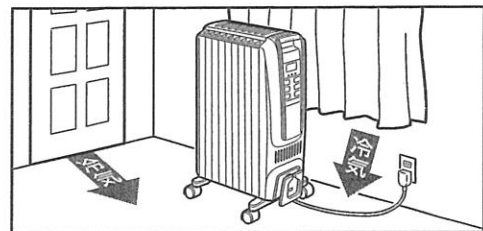
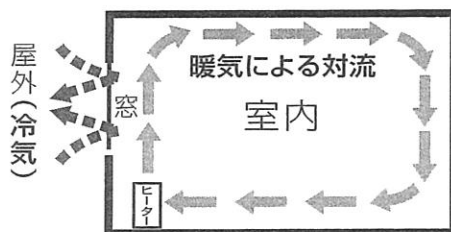
ヒーターの上手な使い方

節電対策



エコ運転を活用することで消費電力量を減らすことができます。また、マニュアル運転でも電力レベルや設定温度を調節することで暖め過ぎを防げますので、こまめに調節するようにしてください。

ダウンドラフト対策：効果的な設置場所



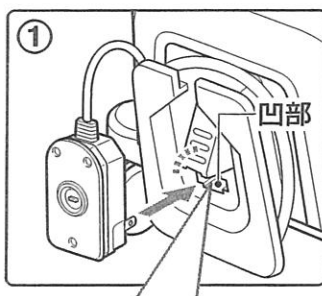
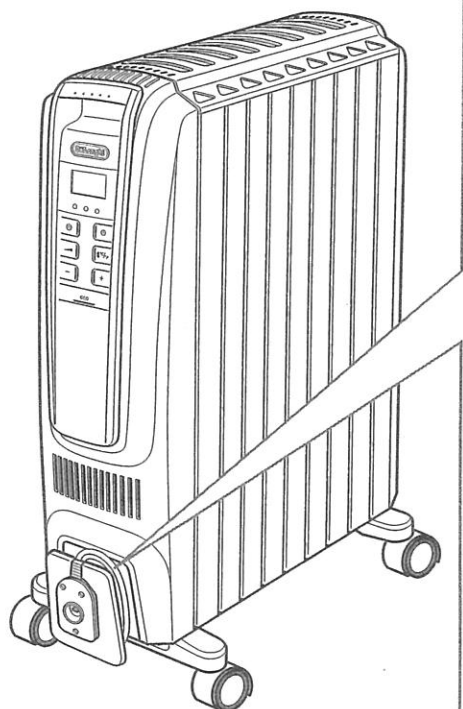
室内で、特に冷気のダウンドラフト(冷気の侵入)が発生しやすい場所=窓の下や外気に触れている壁際などに設置してください。ヒーターの暖気による“エアカーテン”で、ダウンドラフトの発生を抑えます。また、窓に厚手のカーテンをしたり、ドアの開閉頻度を減らすなどの工夫をすることで、より効果的な暖房が得られます。

ヒント

マニュアル運転では電力レベルを「強」ではなく、「中」や「弱」に設定することにより、エネルギーの消費を抑えることができます。ご使用時の外気温やお部屋の広さ、断熱性能に応じて使い分けてください。

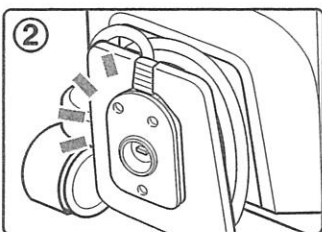
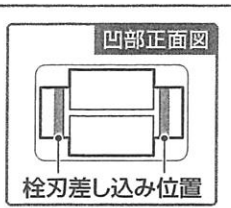
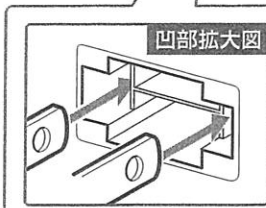
プラグの収納について

収納する際は、電源コードをコード・ホルダーに軽く巻き、電源プラグを図のように収納します。



①電源コードをコード・ホルダーに巻き、電源プラグを奥までしっかりと差し込みます。

※電源プラグの栓刃を凹部の両端に平行に合わせ、真っ直ぐ差し込んでください。



②収納完了。

※電源プラグを収納する場所には温度センサー部があります。収納の際、プラグを無理に押しこむと温度センサー部の故障、および栓刃の変形につながりますので、ご注意ください。



警告




運転の際は、電源コードをコード・ホルダーから解き、余っても束ねない。





断線の原因となるので、電源コードをコード・ホルダーに強く巻かない。

故障かな？ 修理を依頼される前に、以下の点をお調べください。

使用中に異常が生じた場合は、電源ボタン押して電源を切り（＝運転を中止し）、以下の点をお調べください。なお、修理のご依頼は 22 ページ「アフターサービス」を参照してください。

症 状 (状態)	予想される原因	対処のしかた
電源ボタンを押しても、暖かにならない	電源プラグが、コンセントに差し込まれていない	電源プラグ（栓刃）を、根元までしっかりとコンセントに差し込みます。
	電力レベルが低い	電力レベルボタンを押し、電力レベルを  (強) に設定します。
	設定温度が低い	+ボタンを押し、設定温度を上げます。(温度センサー部の周辺温度より設定温度が低い場合は、暖房が開始されません。)
	チャイルドロックが設定されている	電力レベルボタンとエコ運転ボタンを同時に 3 秒間押し、チャイルドロックを解除します。(13 ページ参照)
	電源プラグの復帰型温度過昇防止装置が作動している	運転中に電源プラグスイッチが作動した場合は、一時使用を止め、当社サービスセンター(22 ページ)にご連絡ください。(詳しくは 6 ページ参照)
電源プラグをコンセントに差し込んでも通電ランプが点灯しない	通電ランプが故障している可能性あり	お求めの販売店または当社サービスセンター(22 ページ)にご連絡ください。
電源を入れても電力レベルランプが点灯しない	電力レベルランプが故障している可能性あり	お求めの販売店または当社サービスセンター(22 ページ)にご連絡ください。
	設定温度が低い	+ボタンを押し、設定温度を上げます。(温度センサー部の周辺温度より設定温度が低い場合は、暖房が開始されません。)
	タイマー運転をしている	タイマー設定ボタンを 2 回押し、通常運転に切り替えます。
タイマー設定ボタンを押してもタイマー予約設定ランプが点灯しない	タイマー予約設定ランプが故障している可能性あり	お求めの販売店または当社サービスセンター(22 ページ)にご連絡ください。
使用中、電源プラグ/電源コードが異常に熱くなる (通常時目安：強運転時で約 40℃)	延長コードを使ったり、タコ足配線をしている	延長コードやタコ足配線を止め、電源プラグを定格 15A 以上の壁面コンセントに直接差し込みます。
	電源プラグ（栓刃）を、根元までコンセントに差し込んでいない	電源プラグ（栓刃）を、根元までしっかりと差し込みます。不完全な接続は、感電や発熱の恐れがあります。
	差し込み口（刃受）が 2 つあるコンセントで、両方の差し込み口を使用している	差し込み口（刃受）が 2 つある壁面コンセントを使用する際は、必ず、片方の差し込み口を空けておきます。
	コンセントがガタついたり、差し込み口（刃受）がゆるい	お近くの電気店に、コンセントの修理を依頼してください。コンセントが老朽化している場合があります。
	電源プラグ/電源コードが傷付いたり、変形・破損している	お求めの販売店または当社サービスセンター(22 ページ)に、修理・交換を依頼してください。
	電源コードの上に物を置いたり、無理に曲げている	電気の流れる道が半断状態になると、ショートや発火の恐れがあるので、絶対に止めてください。
	電源コードをコード・ホルダーから解いていない。束ねた状態で使用している	余ったコードも、必ず伸ばした状態で使用してください。束ねると、熱の逃げ場を失って高温になり、発火の恐れがあります。
	電源プラグやコンセントに、ゴミやホコリが付着している	定期的に、付着しているゴミやホコリを取り除いてください。

症 状 (状態)	予想される原因	対処のしかた
タイマーで設定した暖房の開始時刻になっても、暖房が始まらない	設定温度が低い	+ボタンを押し、設定温度を上げます。(温度センサー部の周辺温度より設定温度が低い場合は、暖房が開始されません。)
各種ランプは点灯するが、ディスプレイが表示されない	ディスプレイを消灯している	ディスプレイの明るさを最大にします。(13 ページ参照)
	ディスプレイが故障している可能性あり	お求めの販売店または当社サービスセンター(22 ページ)にご連絡ください。
部屋が暖まらない ※暖房する部屋の諸条件(断熱材や位置など)によって異なります	設定温度が低い	+ボタンを押し、設定温度を上げます。(温度センサー部の周辺温度より設定温度が低い場合は、暖房が開始されません。)
	電力レベルボタンを  (弱) に設定している	電力レベルボタンを押し、電力レベルを  (強) に設定してください。
	ヒーターを、ドア(出入口)付近に置いて使用している	ヒーターの暖気が逃げてしまうので、ドア(出入口)から離れた場所に置いて使用してください。また、窓近くで発生するダウンドラフト(冷気の侵入)を防ぐには、窓下付近に置いて使用するのが効果的です。
	ヒーターのラジエーター内部にあるオイルが、まだ暖まっていない	オイルが暖まるのに約30分～1時間かかるため、事前に電源を入れておいてください。部屋を暖めたい1時間前に暖房運転が始まるようタイマーを設定しておくとう便利です。
内部のオイルが漏れ出している	偶発的な不具合	<p>オイルは難燃性であり発火に至ることはなく、また皮膚に触れても人体に重大な危険を生じさせるものではありませんが、万一オイルが漏出した場合は次のとおりにお取扱いください。</p> <p>電源ボタンを押し電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、漏れ出したオイルをタオルなどで拭き取ってください。必要に応じて窓を開けるなどして換気を行ってください。また、オイルが皮膚に付着した場合はぬるま湯と石鹸で洗浄してください。その後、当社サービスセンター(22 ページ)にご連絡ください。</p>

これは故障ではありません

初期使用時の臭いについて

最初は、新製品特有の臭いを感じる場合があります。これは、本体の耐熱塗装が熱になじむまでのことで、機能や安全性に問題はありません。数日ご使用いただきますと、臭いは次第におさまります。

パチッパチッと音がする

電源を入れると、しばらく、ヒーター内部で天ぷらを揚げる様な音がする場合があります。これは、外気との温度差によって結露が生じ、熱くなったオイルに落ちたときのものです。異常ではありません。

仕様

製品名称	デロンギ ドラゴンデジタルスマート オイルヒーター		
型式番号	QSD0915	QSD0712	
適用畳数	4～10畳	3～8畳	
定格	電圧 / 周波数	交流 100V / 50/60Hz	
	消費電力	600 W・900 W・1500 W	500 W・700 W・1200 W
外形寸法(※) / 質量	長さ 53.0cm × 幅 26.5cm × 高さ 66.0cm / 17.0kg	長さ 46.0cm × 幅 26.5cm × 高さ 66.0cm / 14.0kg	
タイマー	デジタル ON/OFF タイマー		
安全装置	転倒時自動電源遮断装置・温度過昇防止装置(本体内)・ 復帰型温度過昇防止装置(電源プラグ内)		
付属品	上手な使い方(冊子)		

※外形寸法の各数値は、キャスターを開いた状態のものです。

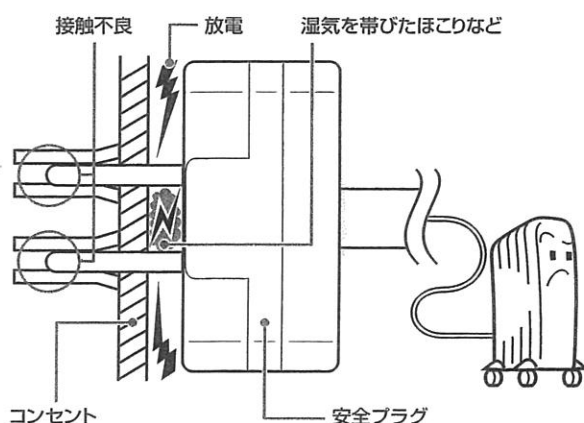
電源プラグ・コードの安全チェックシート

近年、「トラッキング現象」や「電源プラグとコンセントの接触不良」を原因とする火災事故が増加の傾向にあります。製品を正しく、安全にお使いいただくために、下記のチェック項目に従って、使用時だけでなく、定期的に電源プラグ、電源コード、コンセントの点検を行ってください。

トラッキング現象とは ...

長期間、電源プラグをコンセントに差し込んだままにすると、徐々に電源プラグとコンセントの間にホコリが溜まります。そのホコリに湿気が加わることによって、プラグの両極間に微小の電流が流れます。この状況が長期間続くと、電源プラグの刃と刃の間の樹脂部分（絶縁材）が徐々に炭化し、電気の筋道（導电路：トラック）が作られます。やがて電気の筋道に大量の電流が流れるようになり、最終的にはショート（短絡）して、発火の原因となります。これを「トラッキング現象」といいます。

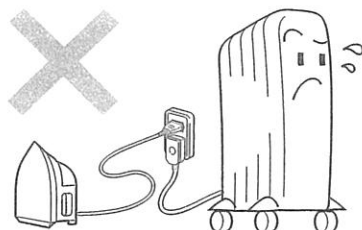
AC100V



電源プラグとコンセントの接触不良に注意しましょう

電源コードを引っ張ったり、電源プラグを根元までしっかりとコンセントに差し込まないと、電源プラグとコンセントの接触が不十分な状態（接触不良）で電流が流れることになり、コンセント部が発熱します。この状態のまま放置していると、コンセントの刃受のばね圧力が劣化します。さらに発熱することでアーク現象（空中放電）が発生し、発火の原因となります。

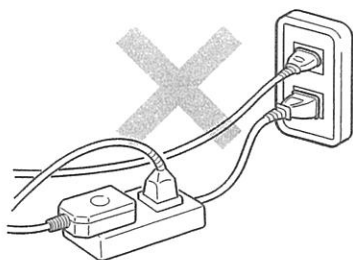
☑ 壁面コンセントを単独で使っていますか？



壁面コンセントは、定格容量 15A のものをお使いください。また、他の器具と併用すると容量オーバーになり異常発熱し、発火の原因になります。

2口コンセントは片方を空けて、単独でご使用ください。

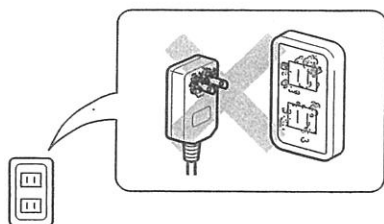
☑ 延長コード、テーブルタップを使っていますか？



コンセントや電源プラグ／電源コードが異常に発熱し、発火の原因になります。

延長コード、テーブルタップの使用は避け、電源は壁面コンセントから直接お取りください。

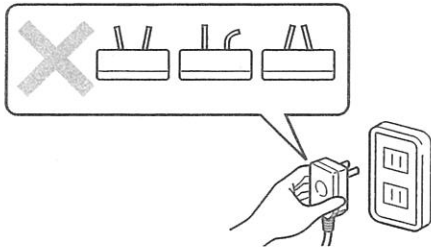
☑ 電源プラグやコンセントにホコリがついていませんか？



電源プラグとコンセントの接触面にホコリや湿気が付着すると、トラッキング現象が発生し、発火の原因になります。

定期的に、電源プラグやコンセントに付着したホコリを掃除機などで取り除いてください。

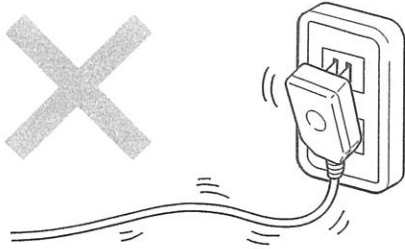
電源プラグが変形していませんか？



曲がった栓刃は、接触不良時の発熱により、コンセントの刃受を変形させる原因となります。

ペンチなどで手直しをしないで、お求めの販売店または当社サービスセンターにプラグの交換をご依頼ください。

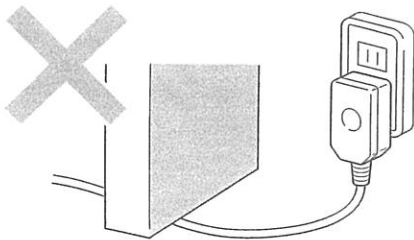
コンセントにガタツキはありませんか？



刃受のばね圧力が劣化したコンセントを使用すると、電源プラグと十分な接触が得られず異常発熱し、発火の原因となります。

コンセントにガタツキや緩みのある場合は、お近くの電気店に修理をご依頼ください。

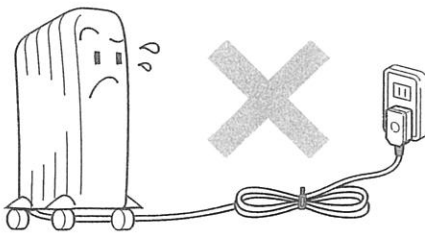
電源コードに重いものが載っていませんか？



家具等の下敷きになった電源コードは、無理な力が加わり、電源コードの中の細い銅線が断線することがあります。最悪の場合には発火の原因になります。

電源コードを家具等で踏んだり、壁に押し付けたりしないでください。

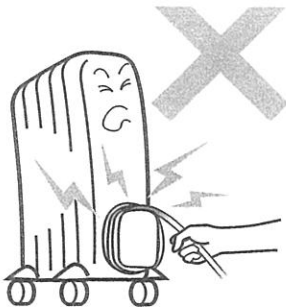
電源コードを束ねたままではありますか？



ヒーター運転中は電源コードの温度が人の体温程度（約40℃）になります。電源コードを束ねたままでお使いになると、熱の逃げ場がなくなり、異常発熱し発火の原因になります。

余った電源コードは残さずコード・ホルダーから解き、伸ばしたままお使いください。

電源コードをコード・ホルダーに強く巻きつけすぎていませんか？



電源コードを強く巻きつけると、コードの接続部が傷み、感電やショートの原因になります。

電源コードをコード・ホルダーに強く巻きつけしないでください。

お手入れ／保管のしかた



お手入れや保管をする場合には、必ず事前に電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷えてから行なってください。



水洗いできません。また、洗剤やクレンザー、シンナーやベンジン、金たわしなどは、使用しないでください。



保管する際は、必ず事前にお手入れをし、逆立てたり、横倒しにしたり、上に物を置かないでください。

※箱に収納しない場合は、必ずキャスターを開いた状態で保管してください。



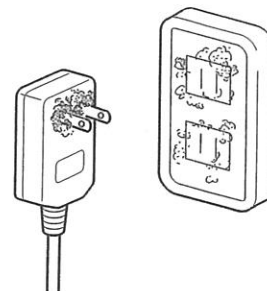
- 本体は乾いた柔らかい布で拭いてください。汚れがひどい場合は、布にお湯を含ませ、固く絞ってから拭いてください。



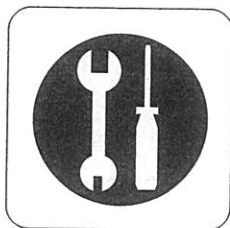
- 本体および壁と床とのすき間に溜っているゴミやホコリは、掃除機などで必ず取り除いてください。



- 壁面コンセント（刃受）および電源プラグ（栓刃）に付着しているゴミやホコリは、掃除機などで必ず取り除いてください。



まごころ点検について

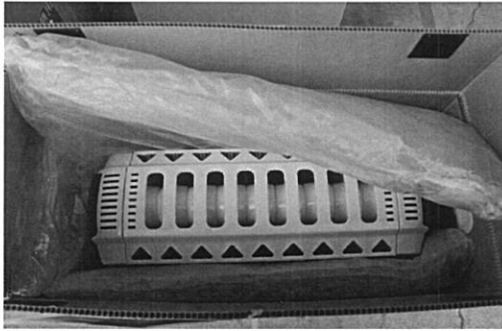


長年ご使用のヒーターは、**点検をおすすめします**。保証期間が過ぎて、少しでも気になる点がございましたら、安全のために専門技術者による点検（お預かり）をおすすめします。点検の依頼および料金等につきましては、当社サービスセンター（22 ページ）までお問い合わせください。



** デロンギ`オイルヒーター: 返却時梱包手順 **

①



・梱包は、ヒーターが完全に冷めてからにしてください。

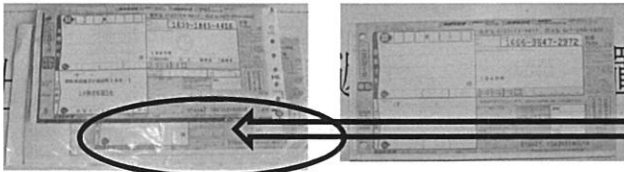
・到着時の箱に写真のようにエアークッションでヒーターを囲い、取扱説明書を入れてください。

②



・配達時にかぶせてあったエアークッションをかぶせてください。

③



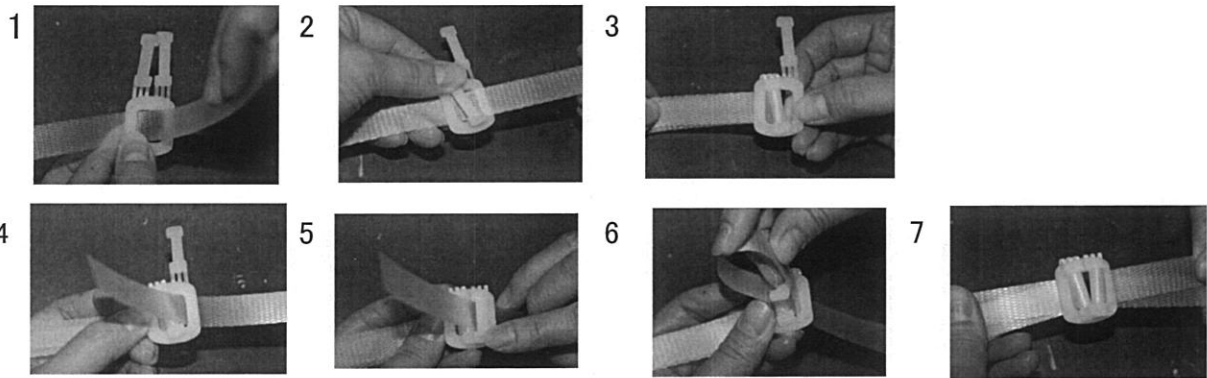
・出荷伝票(写真左)下のビニール封筒の中の返却用着払い伝票を貼り付け位置に貼って下さい。
(写真右)



・PPバンドで締めてください。
(PPバンドの使用方法は図 I を参考にしてください。)

*この度は、レンタルをして頂きまして、誠にありがとうございました♪

図 I PPバンドの取り扱い手順



※上段の写真1~3の順番に片側を留めて頂き、次に下段写真4~7の順番にもう一方を留めてください。
図 I を参考にしても留め方が分からなかった場合は、ドライバー様にお尋ねください。